

講義名	現代世界史			
担当教員	堅田 智子			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

主題：「テーマ史として学ぶオーストリア近現代史」

概要：オーストリアという国に、皆さんはどのようなイメージをもっていますが、「オーストリア」と「オーストラリア」を同一の国と誤解してはいないでしょうか、オーストリアもドイツ語を公用語としている国ですが、日本では、隣国のドイツよりもあまり知られていない国かもしれません。2019年は、日本とオーストリアが正式に国交をむすんでから150周年にあたり、これを記念して、両国で多くの文化事業が実施されました。

本授業では、「ハプスブルク帝国」、「文化」、「芸術」、「政治」といったテーマに重点を置き、オーストリアの歴史や現在まで続く日本との交流について学んでいきます。中学・高等学校の教科書に叙述された事実だけが、歴史ではありません。いわば教科書の行間に埋もれた歴史や名も無き人々の営みにも目を向けていきましょう。

到達目標

暗記型の「歴史」から脱却し、思考型の「歴史学」にふれることが、本授業での最大のねらいです。オーストリアの歴史や日本との文化交流の素養を理解し、関係史/交流史を学ぶことの現代的な意義を考えたいと思います。そして、本授業を通じて、学生は多角的かつ国際的視点、さらに日本や世界のあり方に興味をもち、主体的に考えていく姿勢を身につけるようになります。また、歴史学の学びを通じて、「情報の海」の中で暮らす中で、何が正しい情報なのか見極める力も身につけるようになります。

毎回、授業内容をふまえ、リアクションペーパーの提出を課します。リアクションペーパーを通じて、学生はみずからの考えをまとめ、他者に伝える力を高めていくことも、本授業でのねらいの一つです。

提出課題

リアクションペーパー：毎回、responを利用し、授業内で提示した問いに対する答え、感想、質問等を記入するリアクションペーパーの提出を求めます。
 中間試験：授業内で課題を提示します。
 学期末試験：授業内で課題を提示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

リアクションペーパー（45％）、中間試験（25％）、学期末試験（30％）を総合して、評価をします。
 評価の基準は、1、授業内容を理解し、到達目標に達しているか、2、主体的に問題意識をもち、それを論理的な文章によって表現し、他者に伝えることができるか、という2点です。授業回数全15回のうち5回以上欠席した場合、中間試験、学期末試験を未受験であった場合は、評価の対象としません。

評価の基準

リアクションペーパー（45％）、中間試験（25％）、学期末試験（30％）を総合して、評価をします。
 評価の基準は、1、授業内容を理解し、到達目標に達しているか、2、主体的に問題意識をもち、それを論理的な文章によって表現し、他者に伝えることができるか、という2点です。授業回数全15回のうち5回以上欠席した場合、中間試験、学期末試験を未受験であった場合は、評価の対象としません。

履修にあたっての注意・助言他

本年度は、対面型授業での実施を前提としますが、大学の授業開講方針および新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、授業形式およびシラバスを変更する場合があります。対面型授業の進め方（暫定）は以下のとおりです。詳細は初回授業内で説明します。
 本授業を受講するにあたり、積極的な質問・意見を歓迎します。

《対面型授業の場合》
 授業日2日前（日曜日）までに、RYUKA Portal講義連絡にプリント資料（レジюме）およびリアクションペーパー用のrespon番号を提示。授業までに各自、プリント資料をプリントアウトし、目をおして授業を受講し、期日までにresponに回答・提出する。
 授業中、スマートフォンなど授業に不要なものは、鞆の中にしまいましょう。私語は慎み、大学生として良識ある態度で授業に臨みましょう。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

プリント資料（レジюме）をもとに、授業を進めていきます。プリント資料は、RYUKA Portalに提示しますので、授業までに各自、プリントアウトし、持参してください。主要参考文献は、以下のとおりです。このほか、各回のプリント資料にも参考文献を挙げます。

1. 広瀬佳一、今井謙編著『ウィーン・オーストリアを知るための57章』（第2版）明石書房、2011年。
2. 増谷英樹、吉田義文編著『図説 オーストリアの歴史』河出書房、2011年。
3. 増谷英樹『図説 ウィーンの歴史』河出書房、2016年。

授業計画

- 第1回 ガイダンス/人種、民族、国民、文化から見るオーストリア
- 第2回 「歴史」と「歴史学」
- 第3回 オーストリアの自然と地勢
- 第4回 ヨーロッパの中のオーストリア
- 第5回 ハプスブルク帝権の誕生と発展
- 第6回 多民族国家・多言語国家としてのハプスブルク帝国
- 第7回 帝都ウィーンの世界史
- 第8回 日本・オーストリア交流史：概説
- 第9回 日本・オーストリア交流史：ウィーン万博における日本展示とジャポニスム
- 第10回 日本・オーストリア交流史：ウィーンの世界史
- 第11回 文化・教育から見るオーストリア
- 第12回 芸術・音楽の国オーストリア
- 第13回 過去の克服と歴史認識
- 第14回 過去の克服と歴史認識
- 第15回 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習（目安として1時間以上）：プリント資料をあらかじめRYUKA Portalに提示しますので、プリントアウトし、目をおしておきましょう。高等学校の時に使用した世界史の教科書や資料集に叙述されているオーストリア、前編やニュースなどで報道されているオーストリアに好奇心をむけてみてください。
 復習（目安として1時間以上）：プリント資料をもとに、授業内で挙げた参考文献やインターネットを活用しながら、授業内容を復習してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の到達目標は、歴史学の学びを通じて、何が正しい情報なのかを主体的に見極める力、審美的に事象をとらえる力、みずからの考えを論理的に文章として表現し、他者に伝える力を身につけることです。これらは、本学学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力5項目のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力、創造力（新しい視点と豊かな発想）」、「自主・自立の精神の育成に寄与するもの」です。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

既述のとおり、毎回、responを利用して、授業内で提示した問いに対する答え、感想、質問等を記入するリアクションペーパーの提出を求めます。授業冒頭で、前回、提出されたリアクションペーパーを利用し、授業内容の復習や質問への回答、補足説明を行なうことにより、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

本年度は、対面型授業での実施を前提としますが、大学の授業開講方針および新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、授業形式およびシラバスを変更する場合があります。